

【タイトル】企業研修会（10月研修会）

【部会名】青年部会

【日時】10月16日（木） PM1:00～3:00

【場所】キャノン取手工場

【内容】過去8年連続の増収増益。その間に売上高1.6倍(4兆4813億円)、純利益3.6倍(4883億円)に急成長するキャノングループに、その秘訣を探るため企業訪問を行った。

「一歩0.8秒 20cm(手を伸ばすのに)1秒 90度(振り向き)0.6秒」キャノン取手事業所の工場内に掲げられた、「作業」にかかる時間の基準だ。

まるでコスト削減のために従業員が機械のように管理されているように感じるかもしれないが、全く逆である。働く人たちの表情、動きからは仕事を任されている使命感のようなものをひしひしと感じる。

その秘密は「セル生産方式」にある。ベルトコンベアー式と違い、ひとつの



製品を「セル(細胞)」と呼ばれる工程で、少人数の工員により組み立てる生産

方式だ。当然一人あたりの受け持つ責任が明確になり、それが技術の向上、スピードアップ、ムダの排除、整理整頓などに結びつき、結果的に働く人々の「やりがい」に結びついている。

中には「S級」と呼ばれ、複写機一台全て(部品数 3100 点)を 3 時間以内に一人で組み立ててしまう、まさしく「スーパー工員」もいる。等級はマイスター制度という優秀スタッフの認証制度により選定される。多くの工員たちがただ組み立てるだけでなく、目標を持ち、技術の習得に励む「土壌」がそこにはある。

工場内では随所で「省力化」と「自動化」が成されている。その多くが従業員たちにより工夫され実用化されたものだ。目の前を部品を運ぶ自動ロボットが通っていく様子は「近未来的」な光景だ。不要な作業、移動はしない。工場特有の機械音は出来るだけ小さくする。重たい物を持つ作業は手作りの機械の力を借りる。0.1 秒、1 センチ単位で工夫し切り詰めていく。

これらの創意工夫は「知恵テク」と呼ばれ、生産性の向上に大きく役立っている。技術の習得だけでなく、作業工程のムダを省き、コスト削減の工夫をすることが全従業員に当り前のこととして根付き、作業が楽になり同時に生産性も上がる好循環が生まれている。

キャノングループの成長の原動力はこれら働く人たちの力を最大限に引き出す「仕組み」にあり、その根本精神は「**楽働と多産の両立**」だと感じた。